

圓覚寺 護持会会報

文 殊

平成24年 新春号



「いのちに終わりはない」
人生に終わりはあるけれど
「いのち」に終わりはない
「いのち」が無くなることもない
殺しても殺せない「いのち」
死んでも死なない「いのち」
実は、生まれた時、
既にお母さんから続いていたのだ
だから終わる時も
みんなその中に帰って行く

平成24年
創刊

謹賀新春



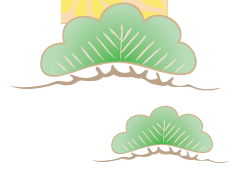
あけまして
おめでとうございます。

檀信徒の皆様方におかれましては、恙無く初春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨春、東北の沿岸を襲った大津波とその後の日本全土を激震させた年が明けました。

南三陸町危機管理課の遠藤美希さんは、大津波の襲来を最後までマイクで叫び続け、自らの命と代償に多くの村民の命を救いました。半年後に結婚式を控えた笑顔の可愛い女性でした。

女川村の水産加工会社役員佐藤充さんは、中国からの研修生二十名を高台



円覚寺十七世 成田大航

に避難させた後、自らは津波にのみ込まれ、未だに行方不明となっています。悲しい出来事ではありましたが、日本人の

真の心の清らかさを世界に知らしめた事であり、二万人に至る尊い命と共に私たちは決して忘れることはありません。

あれから一年を経ずに「謹賀」の文字は相応しくは感じられませんが、仏教の説く諸行無常、流転再生を信じ、新たな時代を期待したいと思います。

新しいことと言えば小さな一歩ですが、此の度総代・役員様のお骨折りで、護持会報「文殊」発刊の運びとなりました。

土師の土地に御先祖がある方でも、遠く離れますと菩提寺をなかなか身近に

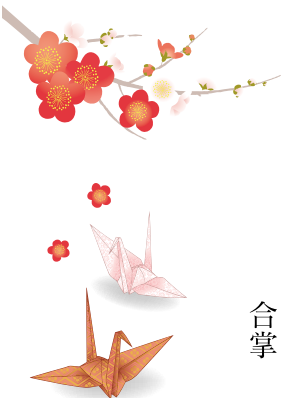
感じて頂けない時代となりました。

「会報」は従前より懸案の課題でもあり、やっと小さな一歩が踏み出したことを嬉しく感じております。お檀家の方にもつと利用して頂き、身近に感じて頂けるお寺作りというものが今後の大きな課題と受け止めさせていただきます。

様々な寺院行持^しでご協力を仰ぐこと

多々あると思いますが、まずは本年の檀信徒各家のご多幸を祈念し年頭のご挨拶と致します。

合掌



円覚寺護持会会報...

発刊に思いを寄せて

代表総代 佐藤正雄



年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

檀信徒の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より皆様方には、円覚寺護持会の一員として護持会の運営にご理解とご協力を頂いていることに心より感謝を申し上げます。今後ともご支援下さいますようお願い申し上げます。

この度、二十三年度より円覚寺護持会報「文殊」を発刊する運びになりました。

ご檀家との絆をより深めたいとの成田ご住職の常々からの思いもあり、ご提

案を受けての発刊で、今のところ年一回の発行とし、折を見て、年二回の発行を目指したいと思っています。

円覚寺は誕生してから数百年、平成二十年五月十日には、御開山三百年忌法要と開創四百年慶讃法要も厳かに開催されました。円覚寺誕生当初は、土師の地元のお檀家ばかりでしたが、時を経るに従い経済成長も伴なって、就職先の関係もあり、広範囲に各地への人口移動も始まりました。又、縁あってこの地にこられる方々もあつて、それぞれ縁によつて結ばれた現在の檀信徒は、三百をこえています。

お檀家のお住まいの分布状態をみま

すと、地元(土師四区)五八%、福知山市内一八%市外(綾部、舞鶴、京阪神、他)二四% となつており、広範囲なひろがりから統一がとれた十分なコミュニケーションがとれていなかったように思います。

会報の役割のひとつは、広報にあると思います。出来るだけお寺の活動、行事、出来事、護持会の運営に関すること、等々を皆さんにお知らせしご理解を頂くこと、又行事、催しもの等に参加して頂く為の参考となるようにすること等。

そして、お寺からの一方通行でなくて、檀信徒の皆様からも、心あたたまる体験談、社会への提言、趣味、俳句等々をご投稿いただき双方向性のあるものになつていけばいいのにな、と思つています。

お寺と檀信徒の皆様とのコミュニケーションが少しでもはかられ、絆がより深まることを祈つています。

成田ご老師と共に



この度、円覚寺と檀家の
絆をより太くするための
会報が発刊される由、誠に

喜ばしい限りです。これを機縁に多くの
檀家のご投稿で、盛大で長続きする会報
となるよう希求します。

振り返って見ますと、成田ご老師が縁
あつて円覚寺での晋山式をされた時、芦
田章夫・高橋正二両氏と共に運営委員を
務め、時を経て総代としても共に護持会
運営に携わっていただき、多大のご尽力
をいただいたことを感謝したいと思います。

土師墓地の一覧表作成・文殊堂の全面
改築・本堂の根本の手入れ・護持会会費
のパソコンによるデータ化など大きな事

前代表総代 芦 田 健

業を終えることが出来たのも檀家の皆
様を初め役員各位のご協力の賜と感謝
しております。

それについても思い出すのは、文殊堂
改築費用のお願いでした。第一の心配は、
アチコチの寺院の改築費用がままなら
ず、計画の中止とか、規模を縮小せざる
を得なくなつたとか：いろいろ耳に入
ってくるなかで、檀家の皆様の格別のご
理解をいただき、予定額に達した時は、
安堵の胸をなでおろしたことでした。

第二の心配は、ご寄付を二年間の分納
も取り入れたための事務の複雑化でし
た。これの解決には、昨今長足の進歩を
遂げているパソコンの活躍がありました。

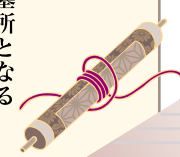
一件の檀家につき二十項目ほどのデータ
を三百余軒分管理するのも、データの組
み立ては大変でしたが、一旦出来上がっ
てしまうと管理面ではパソコン任せで割
と楽に運用できたものでした。

一家に一台の「ワードプロセッサ」の
時代は早くも流れ去り、パソコンで全世
界と通信できる時代となりましたが、単
なる便利さ・早さだけを求めるものでは
なく、その内容には常に「ココロ」「マコト」
を含めた相互通信でありたいと願って
います。

今回の「護持会報」発刊が、寺と檀家・
檀家同士の結びつきをより強固にする
ために役立つことを祈念して筆をおき
ます。

知っているようで
知らない

圓覚寺の歴史



- 創建：慶長十三年（一六〇八）
- 御開山：大超智仙大和尚
- 再建：二度の火災により
享保七年（一七二二）再建
天保十五年（一八四四）再々建 現在に到る
- 文殊堂：建立日時不詳
享保三年（一七一八）再建
延享二年（一七四五）再々建
文化十年（一八三三）瓦屋根修復
平成二十年（二〇〇八）再々々建
- 地藏堂：建立日不詳
享保元年（一七一六）再建
文政八年（一八二五）修復
昭和六年（一七七七）建立
昭和十七年（一九四二）
第二次世界大戦時に供出
昭和二十三年（一九四八）
釣鐘再鑄造
昭和六三年（一九八八）鐘樓門再建

- 主な寺暦
安永六年（一七七七）
釣鐘鑄造
天明七年（一七八七）
福知山藩主第七代舖綱公墓所となる
- 慶應三年（一八六七）
福知山藩主第十二代綱張公墓所となる
- 明治三年（一八七〇）
福知山藩主第十三代為綱公夫人墓所
寛政七年（一七九五）大般若經六百卷
成就し、翌年初めて転読法要厳修
- 文化四年（一八〇七）
天田郡八十八番札所となる
- 文化十二年（一八一五）
金毛長老、法地寺院として初めての晋山式成就
平成二十年（二〇〇八）
開創四百年 御開山三百回忌並に土師観音
開眼式厳修

福知山藩主墓所の事



全国の藩主の墓所は元々江戸の泉岳寺にありました。しかしながら、廃藩置県を経て社会の大変革の中、福知山城主朽木公の墓所は、現在、土師円覚寺にあるのみです。現在三墓の彌柱が祀られております。

- 徳壽院殿本覺桃源大居士（第七代）
天明七年九月廿日寂 行年五十八歳
従五位下朝散大夫 丹波国福知山城主
- 伊豫守宇多源氏佐々木朽木舖綱
錦江院殿成徳惟馨大居士（第十二代）
慶應三年二月十三日寂 行年五十二歳
- 麗香院殿露含蘭英大姉
従五位下朝散大夫 兼近江守朽木綱張
明治三年九月八日寂 行年二十歳
- 福知山藩知事 朽木為綱（十三代之妻）
六浦藩知事 米倉昌言妹
大分損壊がありますが、現在、少しずつ整備を進めております

初詣は先ずわが家の仏壇から

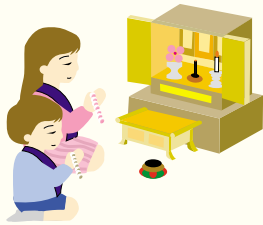
正月に雑煮を食べ、一家で神社に初詣をするのは、多くの日本人の習慣になっていて、これをしていないと折角の晴れ着も魅せる場がないし、正月らしい気分がしないという人が多いと思います。ところで、神社に詣られる前に忘れないでほしいのが、家の仏壇にお詣りすることです。

今日ここにこうして、新しい年を揃って迎えることが出来たのも、それはただの偶然ではなく、はるか昔から、途絶えることなく命の火を灯し続けてきてくれた、何代にもわたる御先祖のおかげであり、そう思えばこうして人として生まれ、生きていることに対する感謝の念も生まれてきます。また、現在の生活は、実に多くの方々の働きのお蔭だということにも思い至ります。

仏壇に手を合わせるの、何かを祈願するといふよりもそつした感謝の気持ちを「合掌」という形で表すのです。

初詣の帰りにはお先祖のお墓参りを致します。「先祖さん、おめでとつございます。こうして家族みな無事で正月を迎えられました」と墓前に報告すれば年の初めの晴れやかな肝になるものです。

お子さんがおられるご家庭は、小さいうちから感謝し、手を合わせる習慣をつけておくと、きつと心の優しい人に育ってくれると思います。



円覚寺ゆかりの地蔵堂

紹介 ①

お地蔵さん

地蔵は、現実界・冥界の行く者を救う阿弥陀信仰とされますが、浄土信仰と結びついて子供の安泰を祈り護る仏として、なじみが深く当地方では、一宮・堀・猪崎・正明寺・市寺・夷・土師・中佐々木・上野条・雲原・岩崎・観音寺・岩井・上小田・川北・十原・猪野々に祀られています。

土師新町のお地蔵さん

- 地蔵堂建立 年月日不祥
- 再 建 享保元年(二七八年)
- 修 復 文 政(二八二五年)

地蔵堂建立縁起

天田郡志によれば、此の本尊はもと因州の僧が丹波の老の坂にある子安地蔵の分霊体を請い受け此処にて休息し、さて立とうとしたところ地蔵尊の目方が急に重くなり、動かすことができなくなり、そのまま置いていたので、円覚寺より話があり、檀家と相談して一字を建立したと伝えられ、文化四年(一八〇七)天田郡大師様札所八八個所の内八三番札所に指定されている。

地蔵堂は、間口三間、奥行二間余りで室内奥の段に仏像十数体が祀られており、頼みごと一つだけかなえられるなどのご利益があるという。

地蔵盆(お祭り)

平成十五年までは八月二十三日に行われていたましたが、自治会の行事に合わせて二十三日に近い日曜日に変更、円覚寺ご住職、ご詠歌講、関係者で法要を行い、新町南子供会と地域の皆さんが多数お参りをして盛大に催しをされます。

地蔵堂内部
地蔵菩薩・観世音菩薩・大師像他
十数体の仏像が安置されている。



地蔵堂 正面



前総代 高橋正氏 記録文書より抜粋



知っているようで
知らない

円覚寺

紹介②

お寺の宝物

秘仏文殊菩薩尊像

縁起に依れば、此の文殊菩薩は丹後切戸(天橋立)の文殊菩薩と同じ仏師、即ち天竺の毘須羯摩の作と伝えられ、古来よりこの土地に安置せられていた。

当寺開山の折、文殊は妙智慧の菩薩ゆえ山号を妙智山と名付け、衆生を円覚の道に入らしめる為、寺号を円覚寺としたこと。秘仏にして江戸時代には賑やかに御開扉が行われていたが、近年はお堂の老朽化で閉扉し、平成二十年開創四百年の記念事業で文殊堂改築の折、御開扉された。以後十七年毎に開帳される。
(次回は平成三十七年)



お寺の動静

本堂用長椅子を増設しました。

殆どの法要は椅子でして頂けるようになりました。



朽木公の墓所階段の整備と参道脇にドウダンツツジを植えました。
平成二十三年秋



外からもお参りが出来るように、本堂前大香炉が出来ました。

施主／芦田 健様
佐藤 正雄様
佐藤 喜信様
仲井きみ代様
下村 純二様
平成二十三年 孟蘭盆

梅花講「講員募集」のお知らせ

昭和三十四年結成以来、綿綿とご詠歌の道に励み、現在は実働十五名程の講員さんが月に二回の練習や様々な行持に参加して頂いております。曹洞宗のご詠歌は「梅花流」と称し開祖道元禪師がこよなく愛された梅花にちなんで名付けられました。詠歌とは、単に歌の上手下手ということではなく、ご詠歌を通して心豊かな日々を暮らしましょうという、詠道に励むことを目的としています。

一、私達は梅花流詠歌を通して、正しい信仰に生きます。

一、私達は梅花流詠歌を通して、仲よい生活をいたします。

一、私達は梅花流詠歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

この三つのお誓いを常に心に抱きながら梅花流のご詠歌があります。

久しく新規募集のご案内をいたしてまいりましたが、来年には初回の集まりを致したいと考えています。初めてでも全くご心配は入りません。お寺の静寂の雰囲気の中で、ご詠歌をお勤めする機会を是非お勧め致します。尚、他の講には男の方も多数おられますので、奮ってのご参加をお待ちしております。その他、何なりと円覚寺までお尋ね下さい。



平成24年度の主な行持予定

- 1月 1日(日) 修証会(元朝互礼会) 10時・11時の2回
 - 12日(木) 大般若法要(大般若経六百巻の転読祈願法要)
 - 2月 15日(水) 涅槃会(お釈迦様ご命日)
 - 3月 (日程調整中) 西国三十三ヶ所巡拝(丹後2ヶ寺と永平寺)
 - 3月 17日(日時調整中) 円覚寺彼岸会(彼岸入り)
 - 日(日時調整中) 護持会決算・予算会
 - 4月 29日(日) 和敬会花祭り(当番:前田、東林寺)
 - 5月 8日(火) 円覚寺花まつり(釈尊降誕会)
 - 5月 29日(火) 梅花流全国大会(千葉、幕張メッセ)
 - 7月 7日(土) 仏教文化大講演会(厚生会館)
 - 7月 29日(日時調整中) 円覚寺境内内作務(役員・会員他)
 - 7月末~8月初旬 遠方棚経
 - 7月 夏休み子ども禅の集い(永平寺1泊参禅)
 - 8月 1日(水) 土師観音盆供養・夜施餓鬼(施食会連夜)
 - 8月 2日~5日 遠方棚経
 - 8月 5日(日時調整中) 土師墓地・檀信徒お墓掃除(一軒に1人)
 - 6日(月) 8:15 原爆追悼平和の鐘(参加自由)
 - 8月 8日(水) 孟蘭盆大施食会(並ニ、初盆大施食会)
 - 9日(木) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
 - 10日(金) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
 - 11日(土) 土師宮町区・土師新町東区棚経
 - 12日(日) 土師新町南区棚経
 - 13日(月) 土師町区棚経
 - 14日(火) 孟蘭盆(お盆参り、午前中は本堂開放しています)
 - 16日(木) 丹波大文字送り火
 - 8月(日時調整中) 地藏盆参り(遠方)
 - 8月(日時調整中) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
 - 9月 19日(日時調整中) 円覚寺彼岸会(彼岸入り)
 - 9月 23日(日) 彼岸参り(遠方)
 - 10月 21日(日) 綾部市、慈音寺晋山結制
 - 11月 10日(土) 徒弟、宗寛入寺式(綾部市、長松寺)
 - 11月 11日(日) 長松寺晋山結制・宗寛法戦式
 - 11月(日時調整中) 秋の西国三十三ヶ所巡拝(信州善光寺と總持寺)
 - (日時調整中) 土師総区戦没者追悼慰霊祭(日時未定)
 - 12月 8日(土) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
 - 12月 18日(火) 大すす払い
 - 31日(月) 除夜の鐘・歳末廻経
- 毎月1日午前6時半 読経会(朝のお勤め会)
 - 毎月第1・3金曜 梅花講詠讃歌(日時変)
 - 毎月第1・3火曜日 午前10時 寿会写経会(日時変)

円覚寺護持会役員紹介

任期	平成二十二年年度~二十四年度
総代	伊藤 宏
担当役員	佐藤 正雄
会長	佐藤 正勝
総務長	伊藤 高志
會計	芦田 孝文
墓地管理者	佐藤 倅志
特別會計	佐藤 幸
會計監査	佐藤 幸
寺報編集委員	大槻 毅敏
全	佐藤 庸司
	伊藤 孝文
	芦田 孝文
	大槻 毅敏
	佐藤 庸司
	佐藤 幸
	佐藤 倅志
	伊藤 高志
	芦田 孝文
	佐藤 正勝
	佐藤 正雄

運	第一班	伊藤 宏
営	第二班	佐藤 肇
委	第三班	佐藤 庸
員	第四班	高橋 雅紀
	第五班	芦田 昌浩
	第六班	西垣 修明
	第七班	大槻 毅敏
	第八班	芦田 孝文
	第九班	芦田 実郎
	第十班	佐藤 重幸
	第十一班	佐藤 幸
	第十二班	大槻 毅敏
	第十三班	伊藤 利昭
	第十四班	大槻 毅敏
	第十五班	芦田 孝文
	第十六班	芦田 毅敏
	第十七班	芦田 孝文

東日本大震災義援金の報告

義援金には多数ご協力賜り誠に有り難うございました。
 集計分として、曹洞宗義援金に二十万円、曹洞宗の活動団体であります、公益社団法人シヤンティール国際ボランティア会に十万円を送金させて頂きました。

一班	一七、〇〇〇円	十一班	一一、〇〇〇円
二班	二四、〇〇〇円	十二班	五、〇〇〇円
三班	一五、〇〇〇円	十三班	一一、〇〇〇円
四班	七、〇〇〇円	十四班	一一、〇〇〇円
五班	一六、〇〇〇円	十五班	一一、〇〇〇円
六班	八四、〇〇〇円	十六班	一一、〇〇〇円
七班	二、〇〇〇円	十七班	一一、〇〇〇円
八班	九、〇〇〇円	梅花講	一〇、〇〇〇円
九班	一六、〇〇〇円	市内外及び住職分	八、〇〇〇円
十班	一五、〇〇〇円		

平成二十四年度年回表

- 一周忌 平成二十三年(二〇一一)
- 三回忌 平成二十二年(二〇一〇)
- 七回忌 平成十八年(二〇〇六)
- 十三回忌 平成十二年(二〇〇〇)
- 十七回忌 平成八年(一九九六)
- 二十五回忌 昭和六十五年(一九八〇)
- 三十三回忌 昭和五十五年(一九七〇)
- 三十七回忌 昭和五十一年(一九七六)
- 四十三回忌 昭和四十五年(一九七〇)
- 四十七回忌 昭和四十一年(一九六六)
- 五十回忌 昭和三十八年(一九六三)
- 一〇〇回忌 大正二年(一九一三)

「編集後記」

円覚寺護持会では平成二十三年度より檀家とお寺の絆を強く大切に、そして気さくに菩提寺を訪ねていただくそんな架け橋にと護持会報を創刊することになりました。

会報は文殊菩薩をまつる文殊の二字をいただき、檀家の皆様にも永く愛される護持会報「文殊」として育てていきたいと思っております。

特に遠隔地の檀家の皆様には疎遠となっておりましたが、文殊を通じて護持会の運営・活動など近況をお知らせするなど、より親しみのある身近なものにして参りたいと思っております。

何分にも不慣れなことです不安もありますが、檀家の皆様喜んで読んでいただけるよう努めます。

後になりましたが護持会編集部では旅行、俳句、川柳などあなたの投稿をお待ちしております。

総代総務担当

芦田 正勝

発行所

圓覚寺護持会会報編集部

住所/京都府福知山市字土師一七七七 電話/〇七七三(二七)四四四七